

水俣市教育委員会点検・評価報告書

(令和3年度実績)



令和4年12月

水俣市教育委員会

目次

はじめに	1
教育委員会の活動状況について	3
令和3年度 教育委員会重要政策事業の点検・評価の結果について	
1 安全・安心な学校施設の整備・充実	4
2 学力向上対策事業（確かな学び・豊かな心・健やかな体を育む学校づくり）	6
3 いじめ、虐待、不登校児童生徒対策事業（誰もが楽しく学べる教育環境づくり）	8
4 給食センターにおける食育・地産地消推進事業	10
5 青少年健全育成事業	12
6 文化会館自主文化事業	14
7 図書館創作活動事業	16
8 公民館自主事業	18

はじめに

水俣市教育委員会では、教育行政を効果的に推進していくこと、また、市民への説明責任を果たすことを目的として、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行いました。

点検・評価は、次に掲げるものを対象に、教育委員会事務局で点検・評価（自己評価）を行い、その後、外部の有識者の皆様に専門的見地からの御意見をいただいております（外部評価）。

- (1) 第6次水俣市総合計画に掲載された事業
- (2) 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

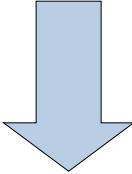
○地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育委に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

点検・評価の流れ

年度	実施項目	実施者	実施時期	実施内容
令和3年度	事業選定	担当部署	4月～ 5月上旬	点検及び評価の対象事業を選定
	事業実施 			
	自己評価	担当部署	3月下旬	選定事業について、実施状況評価表を作成
令和4年度	外部評価	点検評価員	8月	実施状況評価表について点検評価委員の意見を聴取
	最終評価	教育委員	9月～10月	検評価委員の意見を付した実施状況評価表について、教育委員より意見を聴取（総評）
	とりまとめ	事務局	11月	点検及び評価の結果をとりまとめ、報告書を作成
	提出・公表	教育長	12月	報告書を議会に提出し、HPで公表

※点検評価委員

- ・教育に関し学識経験を有する者
 - ・任期は3年
- (委員) 坂本 彰・山本 有三



教育委員会の活動状況について

1 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回の定例会と、必要に応じて臨時会を開催しています。
令和3年度の開催状況は、以下のとおりです。

- (1) 定例会 12回
- (2) 臨時会 3回

2 審議等の状況

(1) 審議事項 36件

審議内容	件数
規則、訓令等の制定又は改廃に関する事	1
職員及び付属機関の委員の任免、その他の人事に関する事	7
議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する事	2
その他	26

※その他…教科書採択、奨学生の決定、後援の承認など

(2) 協議事項 29件

学校教育努力目標、会議の開催日時など

(3) 報告事項 30件

市議会に関する報告、学校教育活動に関する月例報告、催し物の結果報告など

3 水俣市教育委員会

令和4年3月31日現在

職名	氏名
教育長	小島 泰治
委員（教育長職務代理者）	平尾 雅述
委員	堀 浄信
委員	山田 誠次
委員	本田 恵津子

政策事業名	1	安全・安心な学校施設の整備・充実
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業	2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	学校施設は、多くの児童生徒等が1日の大半を過ごす場であり、また非常災害時には地域住民を受け入れ、避難生活の拠り所として重要な役割を果たす施設であるため、児童生徒をはじめ、そこに集まる人たちが安心・安全かつ快適に過ごすことができるように学校施設の環境改善（構造体・非構造部材の耐震化、トイレ改修、空調設備設置等）に取り組む。
事業の目的・目標	耐震化については、平成21年度から小中学校施設の耐震化を進めており、平成24年度までに構造体の耐震化を完了した。しかし、校舎の内外壁等の非構造部材については、耐震対策が万全ではないため、長寿命化を見据え、安全対策を進めていく。 また、トイレ改修については、けがや障がいを抱えた児童生徒等が利用しやすいよう改修を進めていく。 また、空調設備については、近年の外気温の上昇に伴い、教室内の気温上昇が著しいため、児童生徒の体調管理及び学習環境整備の観点から、令和元年度までに全校に設置が完了した。今後は、必要に応じメンテナンスを行う。 いずれも、令和2年度策定の学校施設等長寿命化計画に基づき、順次実施していく。

2【投入経費】

(千円)

年度	前年度	令和3年度	備考	
事業費	67,021	30,146		
財源内訳	国庫支出金	18,552		
	県支出金			
	地方債	48,200	19,300	
	その他		28	既収入特定財源
	一般財源	269	107	

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
【水俣第一小学校】 A・B棟トイレ改修工事（繰越分）を実施	【事業期間】 令和3年5月26日～令和3年10月8日 【事業実績】 工事監理業務委託料 764,000円 ※按分 工事請負費 18,480,000円
【緑東中学校】 トイレ改修工事（繰越分）を実施	【事業期間】 令和3年5月26日～令和3年10月8日 【事業実績】 工事監理業務委託料 413,000円 ※按分 工事請負費 10,489,061円

4【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

【耐震化】建物の長寿命化を見据え、今後の改修計画を策定した。(実績値 8/11)

【トイレ改修】水俣第一小学校A・B棟及び緑東中学校において工事が完了し、衛生面の改善や機能を向上させることができた。(実績値 7/11)

【空調設備設置】既に全小中学校に空調設備を設置しており、必要に応じメンテナンスを行い、大きな不具合なく稼働させることができた。(実績値 11/11、達成済)

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

A

5【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題

市の財政状況が厳しいため、緊急性の高いものから計画的に実施していくことが課題である。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

可能な限り国の交付金等を活用しながら、事前に財政当局と協議し、事業が着実に進められるよう取り組んでいく。

6【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

耐震化については、廃校となった校舎についても安心できる状況となるよう対応してほしい。トイレ改修については、子どもたちは日常的にトイレを使用するため未実施の学校は早急に対応してほしい。昨今の気温上昇は異常な程で、空調設備の設置は重要であるため、全校に設置できていることは良い対応だと思う。学校の安全という点で、不審者対策について多面的、多角的に各校を見てもらいたい。

7【総評】(教育委員会の最終評価)

耐震化や多目的トイレの設置など計画的に進められていて良いと思う。特にトイレは清潔で使いやすいように改修が進んでいると思われるが、袋中学校の職員トイレは男女共用ということなので早めに検討してもらいたい。また、治安の面から廃校になった校舎の対策もお願いしたい。

今後は耐震化の他に自然災害への対策にも配慮していく必要がある。今後も厳しい財政状況は続くが、地方の活力を伸ばすためには子育て・教育の充実、そしてその発信が最も大切になるため、優先順位を判断しながら積極的に整備を進めるべきだと思う。

また、社会情勢を考えると外来者の動向を記録するために、24時間監視カメラの設置を検討すべきではないか。

政策事業名	2	学力向上対策事業（確かな学び・豊かな心・健やかな体を育む学校づくり）
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業	2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	水俣市学校教育3つの努力目標を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、重点項目の一つに「確かな学力の育成」を掲げており、その実現に向けて、児童生徒の学力向上、教師の資質向上や授業力向上を目指し、多角的に事業を推進する。
事業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の実施に合わせ策定した「未来の担い手育成（学力向上）宣言」の具体的実践内容を検討・提案する。 ・全国学力・学習状況調査及び熊本県学力調査の結果等を分析し、児童生徒に県平均、全国平均を上回る学力を定着させるための主体的・対話的な深い学びのある授業実践を提案する。 ・学習指導要領の実施及び GIGA スクール構想の実現に向けた1人1台端末の整備に合わせ、指導力向上を図るために、授業改善に係る指導方法の工夫等について検討・提案する。

2【投入経費】

(千円)

年度	前年度	令和3年度	備考
事業費	2,060	1,236	事業No. 82922, 82942, 82952
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	2,060	1,236

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
学校教育改革プロジェクト会議で次の取組を実施。 ・授業力向上委員会（年6回） 授業改善に係る指導方法の工夫等を提案する。 （※令和3年度は、GIGAスクール構想の実現に向けた1人1台の端末を整備し、その活用により指導力向上を図る。）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育改革プロジェクト会議における授業力向上委員会を6回開催し、全国学力・学習状況調査等からの本市の学力の現状と課題の整理を行った。また、教育セミナー及びフォーラムを通して、ICTを活用した教師の授業力の向上、業務の効率化及び児童生徒の学力の向上に向けた、授業支援ソフトや学習支援ソフトの基本的操作方法を習得するための研修、発達段階に応じた授業等での効果的な活用について実践事例を通して理解を深めることができた。
教職員の資質指導力を向上させるための水俣市教育セミナー（年1回）、学力向上の成果を公開するみなまた教育フォーラム（年1回）を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中であったが、オンラインにて「水俣市教育セミナー」及び「みなまた教育フォーラム」を実施することができた。内容については上記のとおり、ICTを活用した教師の授業力の向上、業務の効率化及び児童生徒の学力の向上に向けて具体的な研修内容で行うことができ、研修後の受講者対象アンケート結果も高い評価であった。
学力向上研究推進校（1校）及び学力向上推進事業実践校（10校）を指定し、研究推進と研究成果の発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上研究推進校（水俣第一中学校）が研究2年目として、「将来に生きる学力のために」をテーマに、見通しを持ちながら主体的に学ぶ生徒の育成を目指して研究を行い、令和4年1月に研究発表会をオンラインで開催し、成果等を市内小中学校に普及発信した。 ・学力向上推進事業実践校において取組が進められ、成果等は授業参観等を通じて、保護者及び地域に発信した（各学校の取組内容については「みなまたの教育」に掲載、100部印刷して関係者に配付）。

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県学力・学習状況調査結果における各教科の領域や観点の項目で県平均を上回ったものは、小学校 24.6%、中学校 59.5%であった。学年ごとの経年変化による比較では、教科間や学年間に定着率の差が見られ、特に算数・数学において定着率の二極化が見られた。 ・また、全国学力・学習状況調査結果については全ての項目において全国平均以下となり、取組を成果に結びつけることができなかった。 ・コロナ禍にあって、オンラインによる教育セミナー及びフォーラム、研究指定校の発表会を実施した結果、より多くの教師が参加、受講する機会が増え、効果があったと考える。 ・各研究指定校の取組により、教職員の授業力向上、児童生徒の学力向上が図られた。成果については発表会の開催や「みなまたの教育」冊子により、市内小中学校及び関係者に普及・配付することができた。 ・1人1台端末の活用については、教育セミナー、研修等を通して、効果的な活用を提案することができた。 	
(自己評価) A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの C 早急の見直しが必要なもの D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの	自己評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; background-color: yellow;"> B </div>

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・県学力・学習状況調査結果における教科間差や学年差、二極化を解消するための方策のさらなる検討が必要である。 ・1人1台端末等のハードや授業支援・学習支援ソフト等の ICT のさらなる活用により、教師の授業力の向上、児童生徒の学力の向上及び業務の効率化に向けて取組を進めていく必要がある。 ・「学校教育改革プロジェクト会議」や「各研究指定校」の取組において、関係委員や担当者の負担が大きいことが課題である。 					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育改革プロジェクト会議の取組として、学校 ICT をより効果的に活用した教師の授業力改善・資質向上を図り、児童生徒の学力向上につなげていく方策を検討していく。 ・関係者の受講機会を増加させ教職員にとって負担の少ないオンライン形式による教育セミナー及びフォーラム等を実施する。 ・令和4年度から新規に学力向上研究推進校及び学校図書館活用教育研究推進校を指定し、指定校の研究取組を通して成果等を市内小中学校全体に普及させる。 					

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>学力向上のために効果的な方法を見つけていくとともに、基礎学力の定着状況がわかるものさしを作って、検証する必要がある。学力をつけるためには、教師の経験と子どもの努力が必要であり、また、興味関心をどう引き出すかがポイントである。</p> <p>学力向上の環境整備を行うとともに、ICT の活用について、より効果的な方法を各学校に提案してほしい。また、幼保小中の連携を見直し、特別な支援を必要とする子どもへの早期対応を図るとともに、特別支援教育や発達障がいに対する保護者の理解を促していく必要がある。</p>					

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

<p>学力の定義、自発的な学びを児童生徒に期待するならば、「多様な価値観」の中で「納得できる目的」をはっきりと示すべきである。目的が不明瞭なままでは効果は期待できない。</p> <p>研究の成果が教師一人ひとりにしっかりと周知され、実践に役立っているか確認してほしい。教師個々の「意欲」への依存、児童生徒、教師の「頑張り」に期待し過ぎていないかを考え、「意欲」の前に「意識改革」に取り組むことが求められる。</p> <p>学力向上については、一人の取りこぼしもないように、引き上げていくことが大切であり、教師の目配り、気づきが必要となる。経験の少ない若手教師の研修の中では、そのことも取りあげてほしい。</p> <p>教師の資質向上のためのセミナーは、授業力向上の成果が期待できる内容である。その成果をそれぞれの学校で復講し、共有することによって全体の底上げを図ることができると考える。今後は、授業に支障のない研修実施についての工夫も必要かと思うので、オンライン研修と通常の研修を組み合わせるなどの工夫を考慮されたい。</p>

政策事業名	3	いじめ、虐待、不登校児童生徒対策事業（誰もが楽しく学べる教育環境づくり）
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	<p>不登校の児童生徒や、いじめ、虐待等の問題を抱える児童生徒の自立を支援することは、本市の、重要な課題の一つである。このため、平成19年度から、問題の早期発見・解決を図るために水俣市自立支援事業連絡協議会を設置し、併せて不登校対策・いじめ防止・虐待防止の3つの部会を置き、ネットワークの構築、情報交換、研究協議、成果の普及等に取り組んでいる。</p> <p>本連絡協議会3部会の機能の活性化とネットワークの更なる強化を図り、各学校の取組と家庭や地域、関係機関と連携して課題の解決に努めていく。</p>
事業の目的・目標	<p>不登校の児童生徒や、いじめ、虐待等の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、水俣市自立支援事業連絡協議会の開催をはじめ、子ども自立支援室やスクールソーシャルワーカーによるきめ細やかな支援等を継続しながら、関係機関とのネットワークの構築を強化し各取組を進める。</p>

2 【投入経費】

(千円)

年度		前年度	令和3年度	備考
事業費		2, 544	2, 562	事業 No. 82A82、82B52
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他			
	一般財源	2, 544	2, 562	

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
水俣市自立支援事業連絡協議会を実施し、関係機関のネットワークの強化、情報交換、研究協議、成果の普及等により課題解決に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で、6月の全体会が実施できなかったため、8月に、不登校対策部会、いじめ対策部会、虐待防止部会の3部会の会議を行った。そこでは年間計画をはじめ、本市の不登校、いじめ、虐待の状況や課題について情報を共有し、未然防止や早期発見・早期解決について協議し、2月に実施予定であった全体会も、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。
自立支援事業連絡協議会の各部会（不登校対策部会、いじめ対策部会、虐待防止部会）を、年間を通じて実施する。 ・各ブロック及び全体での情報交換・協議、ネットワーク構築、情報発信等。	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援事業連絡協議会の各部会では、それぞれの状況や課題について分析し、課題解決に向けて協議や研修を行った。特に不登校対策部会では、近年増加傾向にある不登校について、現状の分析と協議を行い、児童生徒の社会的自立に向けての関係機関の協力体制について協議した。
子ども自立支援室やスクールソーシャルワーカー及び関係機関と連携し、年間を通じて、いじめ・不登校・虐待対策等の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自立支援室の活用について、校長会議等で積極的に周知を図り、不登校・不登校傾向の児童生徒を継続的に支援した。必要に応じて各学校の不登校対策のケース会議にスクールソーシャルワーカーを派遣して指導助言等を行ったほか、児童生徒、保護者との面談を行うなど、不登校の解消に向けて支援した。

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

- ・令和3年度に水俣市の小中学校が認知したいじめの件数は、前年度の43件から79件に増加しているが、これは積極的認知が進んだことによるものである。日頃の見取りやアンケート実施により、早期発見・早期解決の意識が高まってきている。
- ・水俣市自立支援事業連絡協議会について、各部会において、本市の不登校、いじめ、虐待の状況や課題に関する情報を共有し、未然防止や早期発見・早期解決について効果的な協議を行った。
- ・子ども自立支援室の活用について、積極的に周知を図り、不登校・不登校傾向の児童生徒を継続的に支援した。また、必要に応じて各学校の不登校対策のケース会議にスクールソーシャルワーカーを派遣して、指導助言を行ったほか、児童生徒、保護者との面談を行うなど、不登校の解消に向けて支援を行った。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題

- ・新型コロナウイルス感染症による影響もあるのか、不登校及び不登校傾向児童生徒数は増加傾向にある。今後も課題を抱える児童生徒の心に寄り添った対応ができるようにするとともに、学校や関係機関等と連携し、児童生徒の社会的自立に向けた方策が必要である。
- ・いじめに関しては「どの子どもにも、どの学校においても起こり得る」という視点を持ち、早期発見・早期対応に努めるとともに、未然防止の取組、児童生徒や保護者の心に寄り添った対応を心がけていく必要がある。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

- ・不登校児童生徒の解消については、本市の喫緊かつ継続的な課題であり、学校や関係機関等と連携しながら、一人一人の状況に合わせ、児童生徒の社会的自立に向けて丁寧に対応していく必要がある。
- ・引き続き、子ども自立支援室に指導員を配置して不登校・不登校傾向の児童生徒の支援を図る。スクールソーシャルワーカーについては、個別のケース会議だけでなく、定期・不定期に開催される各学校の不登校対策会議等に計画的に派遣し、情報共有や指導助言等の支援を積極的に行う。

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

いじめ、不登校についての結果はすぐに出ないため、児童生徒に対し短期・中期・長期の対応が必要である。教師がアンテナを高くして、子どもの様子の変化に気づき、学校全体で関わっていく体制を作ってほしい。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、家庭相談員、民生委員など外部機関の積極的な活用を図り、子どもや保護者に寄り添いながら、周りには支える人がたくさんいることを感じさせながら地道に取り組むのが良いと思う。

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

子どもたちの立場から見たときに、いじめ、虐待等の問題や、不登校への対応をまとめて取り扱うことが適切なのか、疑問を感じる。個別の問題として捉えなおす必要はないか、検討いただきたい。

いじめに関しては早期発見、早期対応が第一である。そのためには、一番身近にいる保護者や教師の意識を高めることが必要であり、保護者や教師がスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに気軽に相談できる窓口があるといいと考える。

水俣市自立支援事業では、情報の交換や課題の解決に向けた取組について情報の共有がなされ、関係機関を含めた取組も実施されている。今後は、様々な考えを持つ保護者が増えてくると思われるので、日頃から児童生徒や保護者との良好な関係を築く取組や工夫が必要になってくると考える。

令和3年度 教育委員会重要政策事業実施状況評価表 (教育総務課 学校給食センター)

政策事業名	4	給食センターにおける食育・地産地消推進事業
種別	1 水俣市総合計画に掲載された事業 ②教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	食育の推進として、食に関する指導やアレルギー対応食を実施し、また、その拠点となるようセンターの視察研修、試食会、センターまつり等を実施する。 地場産食材を使用した給食「芦北・水俣メニュー」、熊本郷土料理を取り入れた「ふるさとくまさんデー」を実施し、生産者と連携した地産地消を推進する。
事業の目的・目標	学校・地域・家庭と連携して、学校給食を生きた教材とした食育を推進する。 また、生産者の顔が見える地場産食材を給食に使用し、旬の食材を使った芦北・水俣メニューを実施するなど、地産地消を推進する。

2 【投入経費】

(千円)

年度	前年度	令和3年度	備考
事業費	88,515	86,674	
財源内訳	国庫支出金	532	
	県支出金		
	地方債		
	その他	959	73
	一般財源	87,024	86,601

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
食に関する指導を年間通じて実施	○栄養教諭による食に関する指導(22回) ・その他の給食懇談会等は、新型コロナウイルス感染症防止のため、取り組むことができなかった。
給食センターまつりを年1回開催	○給食センターまつり 新型コロナウイルス感染症の発生状況を考慮し、中止とした。
保護者からの申請に基づく、アレルギー対応食の実施	食物アレルギー疾患を持つ児童生徒に対して等しく学校給食を提供するため、保護者及び学校関係者と連携を取りながら29人の児童生徒にアレルギー対応食を提供した。
地元食材の活用による地産地消の推進	これまで納入実績のある地元生産者から年間生産計画を徴し、計画に基づき納入可能な食材を13人から21品目(R4年2月末)購入し、使用した。 地場産材を使用した毎月9日の「水俣・芦北メニュー」、県内郷土料理を紹介する「ふるさとくまさんデー」、毎月19日の「和食を味わう日」を実施し、また、使われた地元食材を給食だよりで紹介し、生産者のモチベーションアップを図ることができた。

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由

児童生徒への食に関する指導については、新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度も資料提供が主なものとなった。

旬の食材については、可能な限り地元食材を利用する地産地消の推進を図る。なお、国の第3次食育基本計画の目標値である地場産材の活用割合30%は達成しているが、県内他地域と比較すると下位にあるので、さらに積極的に取り組んでいくこととする。

(自己評価)

- A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの
- B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの
- C 早急の見直しが必要なもの
- D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの

自己評価

B

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題

- 児童生徒に対する指導は、学校の要請に応じて行うため、回数等の目標設定が難しい。
- 地場産材の提供可能生産者に関する情報が十分ではないため、事業拡大の支障となっている。

(2) 今後の方向性

維持

改善

見直し

休止

終了

- 今後も、各学校との連絡・調整を行い、学校給食を活用した食育指導に取り組む。
- 地産地消の推進に向け、農水部門と一部調整を始めることができた。今後更々に連携を図り品目の拡大に取り組む。

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員

維持

改善

見直し

休止

終了

コロナ禍で衛生面の指導に細心の注意を払っており、アレルギー対応もよくされている。また、市報へのレシピ掲載も良い試みだと思う。新しいメニューの開発には栄養教諭の力が必要となるが、ぜひ取り組んでもらいたい。

コロナ禍で栄養教諭による食育指導ができていないが、学校給食の持つ役割は大きいので、学年に応じた指導を全学年でやってほしい。

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

学校給食の役割は大変重要だと思う。コロナ禍で実施できなかった給食センターまつりや栄養教諭による食に関する指導など、資料だけでは伝わらないところがあると思う。給食の時間を使ってのオンライン指導なども考えられるので、来年度は児童や生徒、保護者への啓発も含め実施に向けて検討をお願いしたい。

アレルギー対応はとて細かい作業と重い責任を伴うので大変だが、1回のミスも許されない厳しいもので、「ミスから学ぶ」ことはできない。これまで事故が起きていないから大丈夫、ではなく、大丈夫な状況から学ぶ姿勢を持って、少しでも事故の危険率を下げる取組を絶やしてはいけないと思う。

地産地消の促進とその成果発信はとて意義があると思う。子どもたちが地元でどのような産物が作られているのか、実感することはとて大切だと思う。

政策事業名	5	青少年健全育成事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	水俣市青少年育成市民会議を通じて、各小中学校校区育成会の実施する青少年育成活動を支援し、市民会議主催の体験学習事業、あいさつ運動等を実施する。
事業の目的・目標	子どもたちの社会性や自己肯定感を高めるため、家庭・学校・地域、それぞれの教育機能の充実と連携を促進し、市全体で次世代を担う青少年の健全な育成を図る。

2【投入経費】

(千円)

年度	前年度	令和3年度	備考
事業費	316	244	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		
	一般財源	316	244

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
校区育成会に対する助成	市内小中学校の校区育成会に対して、活動助成金を交付した。 【対象校】11校区(小学校:7校、中学校:4校) 【助成額】15,000円/校区(上限) 【内容】校区内清掃活動、職業体験、卒業証書作成、どんどこ等
みなまた未来ラボの実施	市内中学生向けの体験事業。 8月(夏休み期間)中の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止
小学生向け体験学習の実施	市内小学生(保護者含む)向けの野外体験活動を実施した。 【事業名】みんなでオリジナルぐるぐるパンを作ろう 【日時】令和3年11月20日(土) 8:30~12:00 【場所】エコパーク水俣 ナーサリー事務所 【参加者】21人(8グループ) 【内容】パン作り、火起こし体験、ネイチャーゲーム等
あいさつ運動の実施	毎月11日を「いい朝いいあいさつの日」とし、市内小中学校で朝のあいさつ運動を行っている。令和3年度は、新調したのぼり旗を各校に配布した。 【事業名】いい朝いい挨拶運動 【日時】毎月11日 各校の登校時間(8月は夏休みのため実施しない) 【場所】各校

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・みなまた未来ラボ（中学生向け体験活動）は、新型コロナウイルス感染防止のため令和2年度に続き中止となった。令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら開催したい。 ・小学生向け体験学習について、令和元年度からパン作りを行っている。応募が多く、抽選で参加者を決定している状況であるため、希望者が多いうちは引き続きパン作り体験を継続したい。 (募集人数：20人、応募者数：31組88人、実際の参加者数：8組21人) ・いずれの事業も、新型コロナウイルス感染症対策のために活動が制限されている。感染対策と事業内容の充実を両立させる必要がある。 	
(自己評価) A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの C 早急の見直しが必要なもの D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの	自己評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; background-color: yellow;"> B </div>

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・人が集まるイベントを行う際、新型コロナウイルス感染症対策を行う必要があるが、事業内容の充実と両立させることが難しい。令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染防止のために中止した事業もある。 					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策と事業内容の充実を両立させることに注力したい。 ・イベントについて、好評な事業は継続していきたい。 ・校区育成会助成金については、現状の予算を確保したい。 					

6 【点検評価委員の意見】 (外部評価)

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
何が行われているのかが見えてこない。毎月11日に取り組んでいるあいさつ運動はどんな効果があるかわからない。青少年の健全育成は大人の意識が大切である。学校では育成会等で様々な活動を行っており、とても良い体験活動になっている。学校外の体験活動については、予算や他の行事との兼ね合いもあるが、たくさん子ども達に体験の機会を提供してほしい。					

7 【総評】 (教育委員会の最終評価)

<p>子どものころに体験したことは、その後の生き方に影響を与えることもある。児童、生徒の体験活動が少なくなっているため、小中学生の間に様々な人との交流や体験をする機会を多方面から提供してほしい。ぐるぐるパン作りは食育にもつながる大変いい企画だと思う。参加人数の制約はあるが、できる範囲で継続してほしい。</p> <p>あいさつ運動については、朝からの声掛けはとても大切と考えられるため、学校独自でもよいので今後も教員の負担に偏りがないようにし、積極的に行ってほしい。</p> <p>青少年を健全に育成するためには、社会が健全であることが必要であり、そのためには大人たちが健全に生きていかなければならない。まさに生涯教育とは何ぞやを示すことが必須であると考えます。</p>

政策事業名	6	文化会館自主文化事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	文化会館における公演の実施 芸術劇場…児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。 一般公演…様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りがないように選定し、年間1～2本の公演を行う。
事業の目的・目標	生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化の向上を図る。 また、単なる一方的な鑑賞にとどまらず、プロに学んだりジョイントコンサートを行ったりするなど、住民参加型の催しも積極的に取り入れていく。

2【投入経費】

(千円)

年度	前年度	令和3年度	備考	
事業費	799	2,155		
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	212	1,467	文化会館入場料
	一般財源	587	688	

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績(回数等)
中学校芸術劇場 「藤原道山&SINSKE」 (尺八、マリンバ)	<ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和4年1月14日(金) ・会場：水俣市文化会館 ・鑑賞対象者：市内中学校全生徒(見込み：559人) ・一部負担金：400円/人 <p>上記内容で実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。</p>
「藤原道山&SINSKE」 (尺八、マリンバ)	<ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和4年1月15日(土) ・会場：水俣市文化会館 ・鑑賞対象者：ファミリー向け ・入場料：【一般】2,000円(当日券 2,500円) 【高校生以下】1,000円(当日券 1,500円) ・入場券販売率：57.6%(前売販売189枚、当日販売11枚、販売席数328席) ・入場者総数：181人(入場率55.1%) <p>新型コロナウイルス感染症対策として、前席のみ販売した。更に当日、希望者と協力者を募り、座席の移動を行うことで来場者同士の間隔を確保した。</p>
「May. J」 宝くじ文化公演	<ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和4年2月12日(土) ・会場：水俣市文化会館 ・鑑賞対象者：ファミリー向け ・入場料：【一般】2,000円(当日券 2,500円) 【高校生以下】1,000円(当日券 1,500円) ・入場券販売率：98.6%(前売販売817枚、当日販売なし、販売席数829席) ・招待席数：15席(津奈木町、芦北町、人吉市 各5席) ・入場者総数：572人(入場率68.9%) ・チケット払戻数：260枚 <p>チケットはほぼ完売していたが、来場を辞退される方が多かった。</p>

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由	
<p>3つの公演のうち、中学校芸術劇場は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とした。</p> <p>開催した2つの公演（「藤原道山×SINSKE 一般公演」、「May J. コンサート」）は、ガイドラインに従い、感染症対策を徹底し、市HPや館内表示等で来場者各人に協力を呼びかけながら、公演を実施することができた。来場者アンケートや問合せの中に、広報活動、鑑賞マナー等についての意見が出されており、次年度以降に向けて改善策を検討する必要がある。</p>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center; background-color: yellow;">B</p>

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 演目や日程、チケット料金の設定、感染症対策など、可能な限り多くの市民に満足していただけるように、情報収集等に努め、最善の実施方法を模索する。 ・ 来場者アンケート等から、鑑賞マナーについて言及されることがあるため、すべての来場者が快適に鑑賞できるよう、多くの人が鑑賞マナーを身に付けられるような方策（市HP掲載、チラシ設置等）を図る。 					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症等の影響で、通常の公演実施が難しい場合でも、来場者の満足度を落とすことなく公演を実施できるような方策を検討していく。 ・ 助成事業等を活用し、低価格帯でありながらも、質が高く市民の満足度を得られる公演を提供する。 					

6 【点検評価委員の意見】（外部評価）

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>市民が文化に触れる機会を大切にしてほしい。小中学校の芸術劇場のように、心を動かす機会を子ども達に与えていることは、素晴らしい。一般公演の内容選定は難しいが、来場者が増えない現状があるため若者や幼児向けの発想があっても良いのではないかと。活性化という点では、保育所や各学校の文化祭と連携してはどうか。コロナ禍で十分にできないかもしれないが、文化会館を大いに活用して文化に触れる機会を増やしてほしい。</p>					

7 【総評】（教育委員会の最終評価）

<p>コロナ禍、財政難など厳しい状況下での企画、運営は苦勞が多いと思うが、その中で成果は出ていると思う。日頃、舞台芸術を鑑賞する機会がない人々にとっては大変ありがたい。イベント実施と同時にいろいろな文化に触れることの喜び、大切さを市民が実感できる機会が増えることにも期待したい。コロナ禍にあつて、芸術に触れる機会が非常に少なくなっているため、芸術文化に触れる機会を模索してほしい。</p> <p>また、市民の教養を高めていくためにはマナー向上も大事である。アンケートの結果を基に対策をたて、市民全体のマナー意識を育ててもらいたい。</p>

政策事業名	7	図書館創作活動事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	1 創作童話ワークショップの開催…小中学生・高校生・一般を対象に創作童話作りを学ぶ講座を実施する。 2 みなまた創作童話大賞の開催 …小中学生・高校生・一般を対象に、創作した童話等の作品を募集し、優秀な作品に対して表彰を行う。
事業の目的・目標	本事業の推進により、市民の豊かな表現・思考・他者とのコミュニケーション能力を育む機会を提供し、読書・創作活動の向上を図る。

2【投入経費】

(千円)

年度	前年度	令和3年度	備考
事業費	0	0	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他	0	0
	一般財源		

3【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
創作童話ワークショップ	開催日：8月下旬 場 所：水俣環境アカデミア 講 師：本木 洋子（作家） ※上記のとおり開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
みなまた創作童話大賞	募集期間：令和3年8月中旬～10月末 応募資格：市内在住（在学・在勤を含む）の小学生・中高生・一般 表彰式：令和4年1月 講 師：本木 洋子（作家） ※上記のとおり開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由	
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業は中止。	
(自己評価) A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの C 早急の見直しが必要なもの D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの	自己評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">C</div>

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題					
令和3年度は事業の実施ができなかったため、新型コロナウイルスの影響に対応できるよう開催内容の工夫及び参加者・応募者の確保が課題になると思われる。					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
新型コロナウイルス感染拡大防止のために、講師との打合せについては、状況次第ではリモートで行い、ワークショップについてはオンラインで行うなど、実施可能な方法を模索しながら事業に取り組んでいきたい。					

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
創作活動は良い取組である。参加者が増えて、創造性豊かな感性を持った子どもたちが育っていったら、と思う。ただ、対象者を考えると範囲が狭い。少しでも多くの子どもたちに本への興味関心を持たせることがポイントになる。図書館の未来の目標・目的を明確にし、図書の実用を図るとともに、様々な年代の方が利用したいと思えるような魅力ある施設にしてほしい。そうすることで、図書館の活動も活性化していくと思う。					

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

まずは、本に親しむ環境づくりが大切だと思う。小・中学校や幼稚園、保育園などと連携した取組が必要である。また、図書館の利用についても、親しみやすく活用しやすい工夫をするとともに、他の市町村の先進的な取組を参考にされたい。 創作童話ワークショップは、良い取組だと思うため継続してもらいたい。コロナ禍の中でオンラインでの開催は当たり前ようになってきているため、オンラインとリアルの両方での開催もいいのではないかと。 また、みなまた創作童話大賞の作品募集、審査、賞の決定などは、人を多く集めなくてもできる方法があると思うので、今後考えていただくとありがたい。

政策事業名	8	公民館自主事業
種別	①水俣市総合計画に掲載された事業 2 教育委員会が点検及び評価を必要と認める事業	

1 【事業の概要、目的・目標】

事業の概要	市民ニーズに合った多種多様な学習機会を提供し、生涯学習活動の活性化を図るため、市公民館において、各種公民館自主事業を開催する。
事業の目的・目標	公民館自主事業（市民教室、いきいき教室、子ども教室、生涯学習フェスティバル）を実施し、市民に広く学びの機会を提供しそれぞれに興味のある事に取り組んでいただき、生きがいを持った、豊かな人生を送っていただけるよう支援する。

2 【投入経費】

(千円)

年度	前年度	令和3年度	備考
事業費	42	709	
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	その他		249
	一般財源	42	460

3 【事業の具体的な取組と実績】

具体的な取組	実績（回数等）
市民教室	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、期間を短縮し、一部の教室では人数を制限して開催した。 ・開講教室：14教室（料理、フラダンス、朗読、生け花、パソコン、クラフト手芸、スポーツ吹矢、ハーモニカ、書道、フォークダンス、はがき絵等） ・期間・実施回数：令和3年10月から令和4年3月までに14回 ・受講者数：延べ970人
いきいき教室	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。
子ども教室	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。
生涯学習フェスティバル	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。

4 【事業の成果】

事業の達成度と、その理由	
<p>・市民教室は14教室を開講し、延べ970人の参加があった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2度の開催延期を行い、開講後も3度の臨時休館が入ったことで開催回数が少なくなった。また、講師の辞退による教室数の減少、密を避けるため人数を制限しての受講者募集、コロナ過での受講申込数の減少があり、例年に比べ参加者は大きく減少した。しかし、令和2年度は開催を中止したものの、当該年度は消毒液設置の他、自動検温器の導入や洗面所を自動水栓化するなどの環境を整備したうえで、基本的な感染対策の周知を行い、事業の継続に努めた。</p>	
<p>(自己評価)</p> <p>A かなりの成果を上げ、今後も維持できるよう努めるもの</p> <p>B 一応の成果は上げているが、更なる向上を目指すもの</p> <p>C 早急の見直しが必要なもの</p> <p>D 当初の目的を達しないなど、事業そのものが困難なもの</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>

5 【事業の課題、今後の方向性】

(1) 課題					
<p>・「市民教室」は令和元年度には21の教室を開講し、参加者数は延べ3,568人で増加の傾向を見せていた。その後新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、令和3年度は14の教室数となっており、参加者数は延べ970人とどまった。今後の実施については、感染状況等を見極めながら、事業の活性化を図っていく必要がある。</p>					
(2) 今後の方向性	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>・今後の事業の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者のマスク着用、換気、密集を避けるとともに消毒・検温などの基本的な感染対策を続けながら、「市民教室」の講師を公募し、感染状況等を見極めながら公民館の利用制限の緩和、事業の活性化を図っていく。</p>					

6 【点検評価委員の意見】(外部評価)

点検評価委員	維持	改善	見直し	休止	終了
<p>市民講座や生涯学習フェスティバルは、生涯学習の観点からよい取組である。ただし、市民の興味関心に合わせた内容になっているか、実施される時間帯などについては検討が必要ではないかと思う。子ども教室についても参加者が決まっているように思えるため、PR方法等を工夫してほしい。コロナ禍で開催を中止した事業も多いが、活動を継続していくための有効な手段を見つけてほしい。</p>					

7 【総評】(教育委員会の最終評価)

<p>市民が実際に活動できる機会と場所を確保していただける貴重な事業だと思う。コロナ禍で事業実施が困難な中、市民教室は短期間で実施され参加者が多かったように思う。今後は、多くの人が興味を持つような内容、広報の仕方も含めて工夫してほしい。場所については公民館に限定されず、アカデミアなどを利用することもできるのではないかと感じた。また、男性の参加が増えるような講座も検討されたい。</p>
